

2023年12月号

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん
温 故 知 新

戸出出身の大関／階ヶ嶽龍右衛門(1817～1868)

幕末に活躍した階ヶ嶽は、当時最高位の大関にまで昇りつめた力士です。現高岡市戸出生まれで幼名は岩次郎。草相撲で活躍したのち、1839年巡業で訪れた鏡岩に見出され、江戸相撲の二所ノ関部屋に入門。初土俵は同年10月です。1845年、八戸藩のお抱え力士となります。新人幕は1848年正月。翌年は2場所連続で優勝します。1854年ペリーが来航し、幕府が米200俵を江戸相撲の力士に黒船まで運ばせた際には、幕内力士の一人として参加します。アメリカ人は、60kgの米俵を2、3俵軽々と運ぶ力士たちに度肝を抜かれました。1855年には、盛岡藩のお抱え力士となり、1856年11月、大関に昇進。しかし翌年正月場所、巨人力士白真弓との対

戦で両手を負傷。1859年正月43歳で引退します。年寄名は熊ヶ谷、のち2代目武隈文右衛門と名乗ります。のち郷里で相撲を指導し、1868年死去(享年52)。今も戸出の墓地に眠っています。

身長188cm、体重131kg。得意技は上手投げ。通算成績は22場所69勝32負7分4預1無82休(当時は年2場所それぞれ晴天10日)。

郷土浮世絵コレクター佐伯孝夫氏(高岡市福岡町)によると、階ヶ嶽を描いた浮世絵は現在約20点確認されており、その人気の高さがうかがえます。(仁ヶ竹主幹)



3代歌川豊国画
《階ヶ嶽龍右衛門》
1847～52年頃、
博物館蔵(柳澤一夫氏寄贈)

問合先 博物館 ☎ 20-1572